

## エチオピア訪問

2014. 8

営業部 企画・海外課

吉岡



平成 27 年 8 月 24 日～29 日の間、エチオピアに訪問しました。目的は、弊社ソーラ  
ハンドポンプシステムの展開を見据え、現地の水事情の調査です。

エチオピアは、9,000 万人余りの人口を有し、国土は日本の約 3 倍です。数千年の歴史を持つ同国は、独自の言語や文化を有し、ヨーロッパの植民地支配を受けたことが無い等、アフリカ諸国の中でも稀有な国として知られています。また、「ルーシー」の名で知られる、約 3 2 0 万年前の初期人類の化石が発見され、人類発祥の地とも言われている国でもあります。日常文化の一つを紹介すると、エチオピアでは、コーヒーが好まれ、お茶の時間を大切にしており、そして栽培自体も盛んです。事実、肥沃な土地を生かし、エチオピアの輸出歳入の大半は農産物からとなり、人口の約 8 割が農業従事者です。経済面においては、成長著しく、経済成長率が 1 0 %を超えています。(2014 年)

同国の水事情に話を戻すと、都市部と村落部では、大きな違いがあります。資料によると、飲料水源を継続的に利用できる人口の割合は50%程度とのことでした。

入国後の数日は、中心都市のアディスアベバ市内に滞在し、近代的なホテルでは、蛇口をひねれば水が出て、電気やインターネットも快適に使える環境が整っています。

一方、いわゆる農村部に足を向けると、そこには、下記の写真にあるように、同国にて数千年の歴史があるという「ゴジョ」と呼ばれる伝統家屋が並び、都会とは全く異なる風景が広がります。



農村部では、人々は川などの水源や日本を含む先進国の援助により設置された井戸から手押しポンプを使い、生活用水・飲料水を確保しています。通りを見渡すと、黄色のタンク

を持った子供や女性を多く見かけます。

また、現地では、水のタンクや建築資材であるユーカリの木を運んでいるロバが通りを頻繁に行き交い、大きな労働力として重宝されています。この通り、水の確保と運搬に費やす作業が、生活の中で大きな時間を占めることが、今回の短い滞在の間でも、よく分かりました。



ポンプメーカーである当社が出来ることは、現地の状況に即した、簡便且つ効率の良い給水ポンプシステムを作り、現地の給水事情改善に寄与することです。

当社では、100%太陽光発電による稼働可能な水中モータポンプとバックアップの

手押しポンプを合わせた「ソーラハンドポンプシステム」を基本設計としたシステムが、それに叶うと考えています。

単純に、作ったものが現地に合うかどうかでなく、現地の事情・環境に合った製品を考えるとといった姿勢が必要であると、今回の現地調査で改めて強く感じました。

こちらの考えのもと、当社では、製品開発を行っていく所存です。また、当社ホームページにて、続きのご報告が出来ればと思います。